



# JICAME 通信

JICA カメルーン事務所  
2012年9月 第3号

## ★★ 9月の予定 ★★

### 【事業・事務所の動き】

9月6・7日:

JOCV 情操教育ヤウンデセミナー

9月7日:

第五次地方給水計画

交換公文(E/N)・贈与契約(G/A)署名式

9月14日:

PRODERiP 精米機 設置・精米サービス  
開始に係るセレモニー

### 【人の動き】

9月17日:

中條 淳 専門家 着任  
(PRODERiP 普及)

9月26日:

22年度2次隊 西出 有由美 JV 帰任  
(小学校教諭・ンフー)

9月26日:

24年度2次隊 古川 可奈子 JV 着任  
(村落開発普及員・フォセット)

24年度短期 上橋 しほと JV 着任  
(幼児教育・クリビ)

### 【目次】

1. アンドン・フィールドステーション  
開所式の実施
2. FOSAS プロジェクト紹介
3. 西出 JV 活動内容紹介
4. カメルーンの凄い人
5. 広報記事の紹介

## 「カメルーン熱帯雨林とその周辺地域における 持続的生業戦略の確立と自然資源管理」 アンドン・フィールドステーション開所式の実施

JICA カメルーン事務所 企画調査員 桑畑 美津子

「カメルーン熱帯雨林とその周辺地域における持続的生業戦略の確立と自然資源管理」プロジェクト(以下「FOSAS」とする。)の活動拠点の1つとして、アンドン・フィールドステーションが完成しました。

同ステーション竣工を記念し、2012年8月29日に、アンドンでオープニングセレモニーが開催されました。

本セレモニーには、カメルーン科学研究省(MINRESI)の次官、カメルーン側研究機関(IRAD)の局長、アンドン市長、村長が参加しました。また、日本側は、京都大学教授でプロジェクトの総括でもある荒木氏、在カメルーン日本国大使館の藤田参事官、JICA カメルーン事務所の村上所長が出席されました。

当日は、多数の地域住民含め関係者一同が参集した盛大な開所式となりました。



開所式スピーチを行う村上所長

MINRESI 次官によるスピーチ

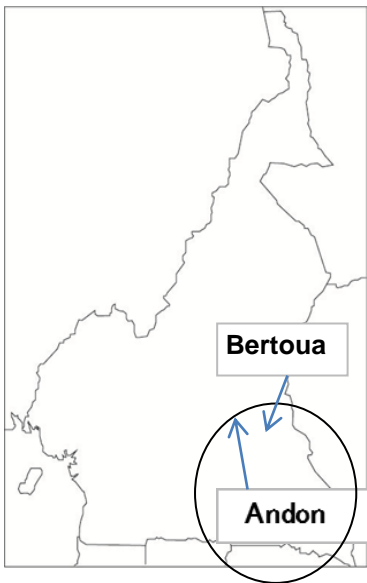
# FOSAS プロジェクトとは！？

国立大学法人京都大学（日本側研究機関）、IRAD（カメルーン側研究機関：Institute of Agricultural Research for Development）を実施機関とし、「カメルーン国南部州、東部州の森林帯とその周辺地域において、持続的な土地利用と自然資源保全の方法が示される」ことを目標とする地球規模課題対応国際科学技術協力事業(SATREPS)である。FOSAS プロジェクトは、2011年7月より実施されており、協力期間は5年間である。

地球規模課題対応国際科学技術協力事業とは、環境・エネルギー、生物資源、防災、感染症などの地球規模の課題の解決を視野に、これら諸課題の解決に繋がる新たな知見の獲得およびその成果の将来的な社会実装（具体的な研究成果の社会還元）を目指し、開発途上国の社会的ニーズを基にわが国の研究機関と開発途上国の研究機関とが協力して国際共同研究を推進することによって、開発途上国の人材育成および研究能力の向上を図ることを目的とするものです。

## 1. プロジェクト開始までの経緯

カメルーンとその周辺国との国境をまたぎカメルーン国(以下「カ」国とする)の南部、及び東部に広がるコンゴ盆地森林地帯は、アマゾンに次ぐ面積を誇る森林区域であるとともに、生物多様性の面からもその名が知られている。同地域に暮らす住民は、豊かな自然資源の恩恵により、深刻な飢餓や旱魃などの災害を回避しつつ、伝統的にこれら自然資源や土地を利用して生計を立ててきた。しかし、近年の人口増加や、市場性を優先する農産物栽培の浸透などにより、森林破壊を伴いつつ移動耕作を行う焼畑耕地が急激に拡大し、加えて1990年代半ばからの「カ」国政府による経済の近代化・開放・競争力強化を目指した改革取り組みの結果、森林伐採が進み、森林面積の減少が環境問題として認識されるようになった。



こうした状況から、農業生産性の改善や持続的な森林資源利用の取組みを含め、住民生活と両立する森林保全の取組みが強く求められている。

「カ」国の研究・教育機関である、チャン大学、ヤウンデ第一大学、ドゥアラ大学は、十数年にわたり、京都大学とともに農業分野の研究や非木材森林資源利用の研究、農村調査等を行い、連携した取組みを培ってきている。先般、これまでに形成された共同研究体制を基に、2009年度、「カ」国より我が国政府に対し、科学技術協力プロジェクトの要請が提出され、本プロジェクトが実施されるに至った。

## 2. アンドン・フィールドステーション開所式

本ステーションは、FOSAS プロジェクトに関わる多数の研究者・学生が宿泊し、共同生活をしながら調査研究活動を行う活動拠点として建設されました。プロジェクト終了後は、カメルーン側に譲渡され、地場資源運営事務所、病院、学校、集会所などに転用されることが検討されています。



建設に関しては、土や木等、現地素材を最大限に活用し、短い工期と低予算で熱帯雨林一体に広く適用できる新しいプロトタイプが示されました。今後は、この新たなプロトタイプ



次官に設計説明を行う安田建築家

の普及へと活動が展開され、また、現地住民が自らの手で本工事を成し遂げられたことで、彼らが習得した技能（土のう基礎、ブロック壁、木造屋根）を活かした彼ら自身の新たなビジネス企業への支援が期待されています。



アンドン・フィールドステーションのリボンカット



# MON ACTIVITÉ AU CAMEROUN

青年海外協力隊 平成 22 年度 2 次隊 小学校教諭 西出 有由美

西出 JV が、青年海外協力隊員としてカメルーンに着任され早いもので 2 年が過ぎようとしています。西出 JV は、地方都市「Mfou」で小学校を受け持ち、図工で折り紙やデッサン、体育でボール投げや陸上競技などを教えています。着任時は「異文化の教育現場で様々なことを発見できそう」と期待に胸を膨らませていた西出 JV の 2 年間の活動の果てに抱いた想いとは。西出 JV より、活動内容をご紹介します。

2 年間で振り返ると、いろいろなことがありました。楽しかった思い出も、嬉しかった思い出もあります。でも、悲しかった思い出も、悔しかった思い出も、同じくらい（むしろ多く！？）あります。その一つひとつが合わさって「私の活動」が出来上がったのだと思います。



Mfou の中心地にある植え込み

そんな「私の活動」から、今回は二つのことを紹介します。

## 1. 指導案集紹介セミナー

2010 年に JICA と初等教育省が共同制作した指導案集があります。その指導案集の紹介セミナーを同任地の山下ボランティア（幼児教育）と一緒に行いました。Mfou 内にある幼稚園と小学校を巡回し、開催しました。

教員参加型のセミナーということで、指導案集に載っている例をワークショップ形式で行いました。配属先の理解や協力も得られ、ボランティアと教員双方にとって非常に良い機会になったことと思います。



切り絵を教えている様子



切り絵完成を喜ぶ先生たち

## 2. 組体操の発表

今年の 5 月 20 日、統一記念日に組体操の発表をしました。カメルーン人の先生と二人三脚で教え、当日はその先生が中心となって発表しました。



本番での子どもたちと先生の様子

最後まで何が起こるか分からないカメルーンの様々な仕組みにアタフタし、かなり心細い時も過ごしましたが、本番の子



発表後の集合写真

どもたちの立派な姿を観られたときには、本当に感動しました。同時に、カメルーン人と共同で行う素晴らしさを感じたひと時でもありました。

失敗も反省もいっぱいありましたが、なんとかここまで歩んできました。その支えとなってくれたのは、可愛い子どもたちの笑顔と、仲間たちの協力です。なによりも感謝の気持ちでいっぱいです。この貴重な経験を糧に、次なる「活動」にも邁進していこうと思います。



体育の様子



図工の様子

## 第二回 カメルーンの凄い人たち！！ ケンファックさん 今回は、淵上企画調査員から紹介いただいた画家です。



ヤウンデ1大学のファインアート科を作った1人にケンファックというアーティストがいます。彼はパリのボザールで学んだ後、ファインアートの博士号をパリ8大学で取得していることもあり、前述のヤウンデ1の美術・考古学部のファインアート科と、フンバンにあるボザール(美術学校)で後進の指導にあたっています。

非常にミステリアスな人物で、この世のものではないような独特の雰囲気を持っています。

西部州の伝統的な精神世界を現代的な手法で描く彼の絵の中で

は、動物と人間が、先祖の住む世界とこの世が混じり合い、何とも言えない時空間が存在します。最新作の巨大なタブロー群はある個人の葬儀の儀式のために制作され、一枚一枚に作品がその所有者のみのものであるよう封印するための茶色い楕円が描かれています。



Pascal Kenfack をネットで検索すると何点か作品が出てきます。

興味のある方は是非彼らの作品をご覧ください。

### ー中西部アフリカ事務所長が地域を語るー ☆ 村上カメルーン事務所長 出演 ☆



JICA カメルーン事務所長の村上所長と他中西部アフリカ事務所長との対談記事が JICA ホームページに掲載されました。

カメルーンでも雇用の確保は最重要課題ですが(雇用・成長戦略文書(DSCE)によるとカメルーンの2009年時点の不完全雇用率は75.8%)、他中西部アフリカ諸国においても、若年層は「雇用」を求めてテロ関連組織に取り込まれていく現状があり、カメルーンを含めた中西部アフリカ地域は、貧困が世界にどのような悪影響を与えるかを実感せざるをえない地域でもあります。

本記事はこちらから→ [http://www.jica.go.jp/topics/2012/20120817\\_02.html](http://www.jica.go.jp/topics/2012/20120817_02.html)

### ーカメルーンの熱心な JICA ファンー ☆ 吉田陽一専門家の記事が掲載される ☆

「火口湖ガス災害防止の総合対策と人材育成プロジェクト」の業務調整専門家として活躍されている吉田専門家の記事が「世界 HOT アングル」に掲載されました。日本とカメルーンの間をつなぐことができます。

本記事はこちらから→ <http://www2.jica.go.jp/hotangle/africa/cameroun/001011.html>